

2019年5月21日  
市光工業株式会社

**市光工業、人とくるまのテクノロジー展 2019 横浜に出展：  
「コミュニケーションライティング」プロトタイプ実物大展示による  
自動運転時代の新たなライティングソリューションを提示**

大手自動車部品メーカーの市光工業株式会社（本社：神奈川県伊勢原市板戸 代表取締役会長：オードバディ・アリ、以下 市光工業）は、2019年5月22日（水）から5月24日（金）までパシフィコ横浜・展示ホールにて開催される「人とくるまのテクノロジー展 2019 横浜」において、自動運転時代の新たなニーズに応えるライティングと新構造ドアミラーの最新技術を展示します。ブースは、317です。

今回、市光工業は、自動運転時に車両がドライバーの代わりとなり光で意思を表現する LED 約 400 個を使用した「コミュニケーション ライティング」の実物大モックアップを展示します

自動運転時においては、ドライバーのアイコンタクトやジェスチャーといった意思伝達は存在しません。コミュニケーション ライティングは自動運転中のドライバーに代わり、車両の動き（意思）を自動的に周囲のドライバーや歩行者等に、光やサインで伝えるシステムです。

これにより、自動運転車両の周囲の人たちの不安を解消します。車両を取り囲むように設置されたコミュニケーションランプは、様々な危険な状況を周囲に注意喚起することで、安全性が向上します。近い将来訪れる自動運転社会への大きな変化点を見据えた、ライティングの新たな HMI としての役割（HMI：Human Machine Interface 人間と機械が情報をやり取りするための手段・装置としての光）についての独自のコンセプト提案です。

欧州・北米などで準備中の ADS (Automated Driving System)ライティングの規格に合わせ、展示品の自動運転中を示す点灯色にブルーグリーンを採用しました。また今回実物大モックアップの展示を行うことにより実際どのように見えるのかを来場者の方に体感していただけます。



今後の自動運転化を見据えた「センサー内蔵ヘッドランプ」を展示します

レーダーは測距・障害物検知に電波を利用するセンサーで、すでに多くの車両でクルーズコントロール機能などに用いられていますが、ヘッドランプに搭載することで、前側方から接近する対向車の検出に有効で、交差時の安全が向上します。



ヘッドランプはレンズで覆われた密閉空間という利点を活かし、レーダー、カメラなどのセンサーが雨滴や雪、埃から守られた状態で本来の性能を発揮させることが可能となります。

また、従来から備わっている光軸調整機構と兼用することでセンサーの向きを最適に保持することができます。意匠面ではセンサーをランプに内蔵することにより車両の意匠に影響を与えることがなくなります。ヘッドランプとセンサーのモジュール化により車両ハーネスの取り回しの簡素化ならびに車両組立工程の簡略化に寄与できます

「新構造ドアミラー」は、従来のドアミラーでは鏡面作動と電動格納のため必要であった2つのアクチュエーターを1つに統合したものとなります。



従来はミラー頭部に鏡面作動させるためのアクチュエーターを内蔵する必要があり、ある程度のスペースを確保しなければならずミラー頭部の小型化が困難でした。今回のコンセプトは電動格納アクチュエーターと統合することにより小型化による意匠性と空力性能の向上が可能となります。

また、従来製品より可動速度の速いアクチュエーターを採用することにより、より多くのシチュエーションでの安全をサポートします。このことにより進路変更時の死角低減や降車時における後方からのすり抜け車両の発見に寄与します。

「カメラモニタリングシステム専用電動格納アクチュエーター」は、CMS（カメラモニターシステム）クラス3用の薄型電動格納アクチュエーターとなります。

アクチュエーターの上下方向を薄型にすることにより、デザインの自由度を上げサイドターンやアラウンドビューモニターカメラといった他の機能を搭載しやすくなりま

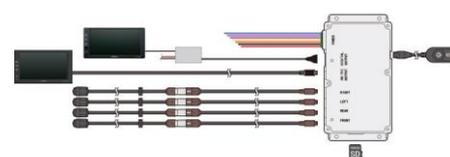


アフターマーケット向けの製品として、「**3D サラウンドマルチビュー**」を展示します。4つの約100万画素の高解像度カメラで捉えた映像を三次元モデル上でリアルタイムに合成し、高画質な全周囲立体映像をモニターに表示します。

またウインカー・バックギアとの連動で右左折時・駐車時にビューを自動で切り替えて安全運転をサポートします。さらに、約190°の広角カメラを使用し、見通しの悪い交差点でのフロントビューで視界を確保します。

本製品は、汎用のカメラロングケーブルに対応し、中型・大型トラック、トレーラー、特殊車両や建機にも取付が可能となります。

また、Digital・HDTVの2種類の出力とすることにより、全ての市光製モニターへ接続にも対応となります。



「**8インチHDモニター&小型HDカメラ**」は、モニターを従来の7インチから8インチへ拡大、カメラは30万画素から123万画素へ機能アップとなります。

123万画素にすることにより鮮明な映像を色鮮やかに、また、光の明暗の影響が受けにくく、夜間やトンネル内などの視認性を向上させました。



**自動車技術展：人とくるまのテクノロジー展 2019 市光工業 展示ブース： 317 番**  
**ヴァレオ・市光記者会見： 5月22日(水) 午前8時15分～ ブースにて開催**  
(参考)

<市光工業とは>

市光工業株式会社は、1903年創業以来、自動車用ランプとミラーの純正部品専門メーカーとして、国内主要自動車メーカー及び、海外主要自動車メーカーに製品を納入してきました。

また、神奈川県厚木市に厚木製造所を建設し2019年7月の稼働を予定しております。今後5年をかけて伊勢原製造所の生産を移管し、新工場においては、リーン生産方式の採用や、ヴァレオ社の開発した生産技術コンセプトを採用し、生産の効率化を図ることで、ヘッドランプを中心とする事業の成長に繋がります。

<本件に関するお問い合わせ先>

市光工業株式会社  
経営企画室 室長 高森

TEL : 0463-96-1442

URL : <http://www.ichikoh.com/>